

新型コロナウイルスにおける ゾーニングの考え方①

ゾーンの考え方

- 隔離対象者が在居している部屋や陽性者の退出直後の病室などが対象

必要なPPE等

- エアロゾルによる感染の可能性もあるため¹⁾、基本的にはN95レスピレータを着用。
- 眼にウイルスが曝露する可能性がある場合はアイプロテクトを着用
- 着衣や手にウイルスが曝露する可能性がある場合は、ガウン・手袋を着用。
- N95レスピレータ以外のPPEはレッドゾーン内で脱衣許容

必要な設備等

- 陰圧または高換気な状態とするのが理想

レッドゾーン

ゾーンの考え方

- PPEを脱衣するゾーンなどが対象
- 隔離病室の廊下を対象とする場合もあるが、環境に存在するウイルスが飛散して感染する可能性は低いため、廊下をイエローゾーンとする必要性は低い
- ICU等では薬剤の受け渡しに活用
- 最近ではイエローゾーンを設けない施設も存在

必要なPPE等

- N95レスピレータを含むPPEはイエローゾーン内で脱衣
- 隔離病室前室はイエローゾーンとし、前室がなければ病室内でPPE脱衣
- 病室が狭い、精神疾患・認知症患者など病室内で脱衣できない場合は、廊下などにイエローゾーンを設定しPPE脱衣
- N95レスピレータを外した後はサージカルマスクを着用

イエローゾーン

ゾーンの考え方

- 通常業務を実施する場所などが対象

必要なPPE等

- レッド/イエローゾーンからグリーンゾーンに戻る場合は必ず手指衛生
- リユースするN95レスピレータやアイプロテクトはグリーンゾーンで保管許容 (前室がある施設は前室で保管可能)
- 使用済みのガウン・手袋・未消毒のアイプロテクトを着用したまま戻るのは厳禁
- 職員間の感染予防としてサージカルマスクの着用は継続

補足事項 (勤務中の留意事項など)

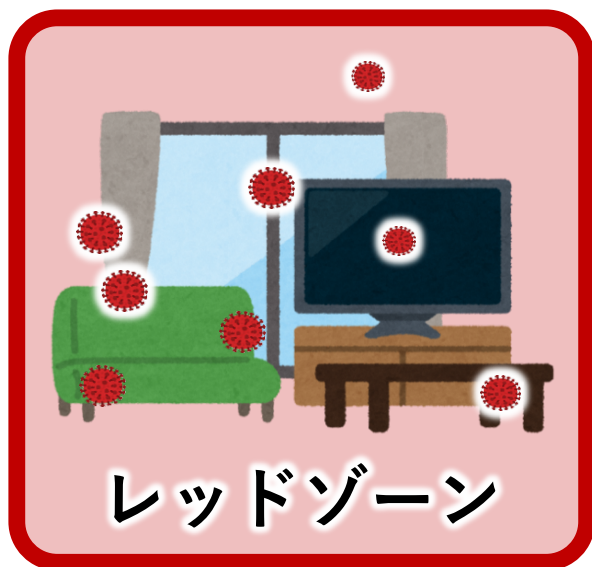
- 食事などでサージカルマスクを外した場合の会話は厳禁
- サージカルマスクを着用していても大きな声を出したり、密接したりする状況は回避

グリーンゾーン

※ どのゾーンも床は汚染されている可能性があると考え、清潔物を床に直接置かない。ただし、床の消毒などの過剰な対応は不要である(日常的な清掃で十分)。

新型コロナウイルスにおける ゾーニングの考え方②

空気・環境に
新型コロナウイルスが存在



レッドゾーン

(例) 隔離対象者の病室

空気には存在しないが
環境には
新型コロナウイルスが存在

最近では設定し
ないことが多い。



イエローゾーン

(例) PPE*を脱衣する場所

空気・環境に
新型コロナウイルスが存在しない



グリーンゾーン

(例) 通常業務をするエリア

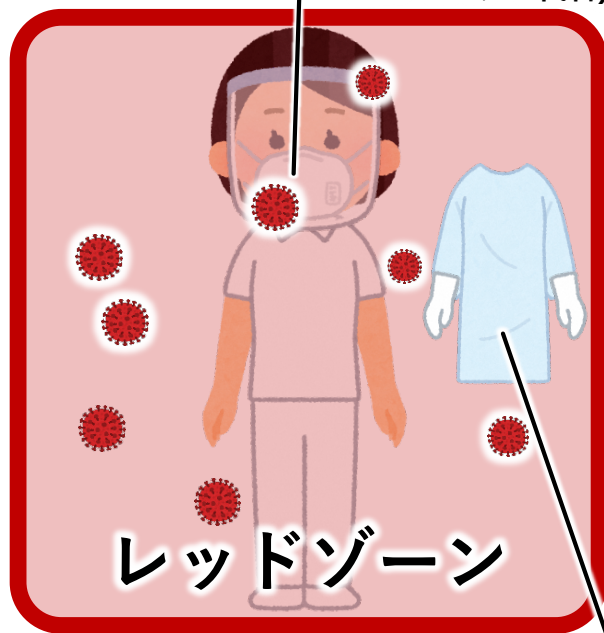
* PPE: マスクや手袋などの個人防護具

新型コロナウイルスにおける 各ゾーン進入時の基本的PPE

N95レスピレータ(マスク)とアイプロテクト

※ アイプロテクトは飛沫が眼に曝露しない場合、N95レスピレータはエアロゾルが飛散していない状況(見回り時など)では着用の必要性低い(N95はサージカルマスクで代替)

不織布製マスク(サージカルマスク)



ガウン・手袋は、飛沫など湿性生体物質[†]が着衣・手に曝露する場合や体位変換など直接接触する場合に着用

* PPE: マスクや手袋などの個人防護具

†: 血液や体液、粘膜など、ヒト由来の湿り気のある物質

新型コロナウイルスにおける 隔離対象者の入院病室の考え方

個室隔離可能な場合
(対象者少数)

個室隔離困難な場合
(対象者多数)



陽性者

個室

多床室

陽性者以外の同室禁忌

※ 同じ病原体に感染している患者同士では、同じ病原体が感染する可能性が低い



濃厚接触者*

個室

多床室

濃厚接触者以外の同室禁忌

※ 原則は個室隔離だが、すでに感染している可能性もあるため、病床が逼迫した場合はやむを得ない



疑似症者

個室

個室

* ここでの濃厚接触者とは施設内で認定された方を指す。
例えば、陽性となった患者以外の同室患者など。

隔離病室・病棟の基本的な管理

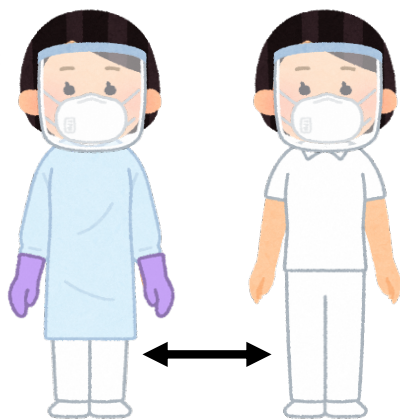


- 陽性者隔離病室は可能な限り換気し、病室のドアは必ず閉める。



- レッドゾーン内であっても、陽性者や周辺環境に全く接触しない場合は、N95レスピレーター以外のPPEを着用する必要性は低い。

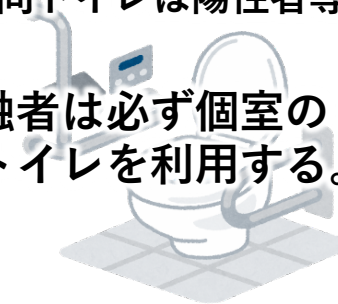
- すべてのPPEは1処置(=1患者)ごとの交換が基本
- しかし、緊急時や供給不足時などは、他の患者への感染リスクが低いN95レスピレーターとアイプロテクトは1患者ごとに交換しなくても許容される。



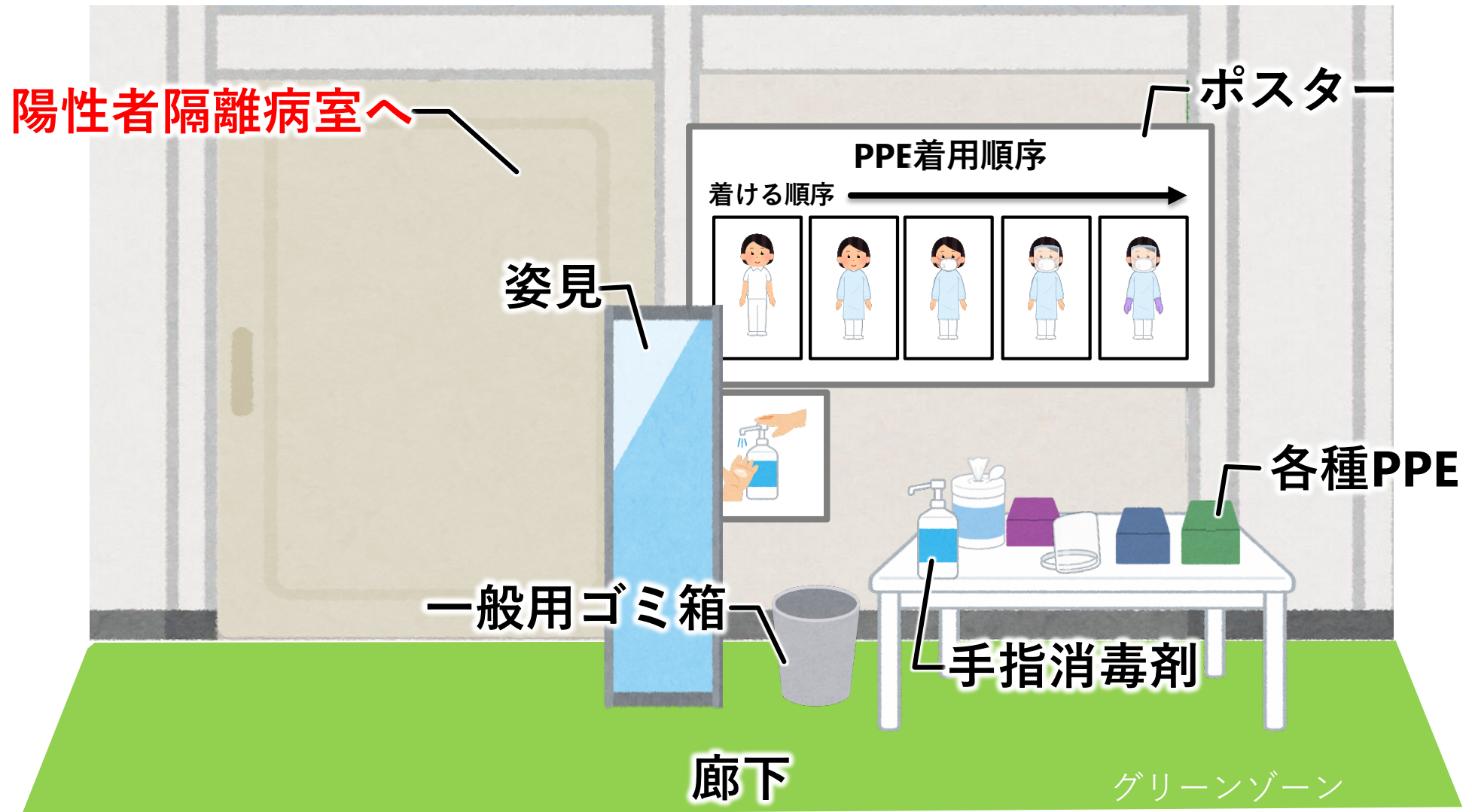
首から下は毎回交換

新型コロナ病棟のトイレについて

- 陽性者のトイレは病室内のトイレかポータブルトイレの使用が基本。
- ポータブルトイレを利用できない場合は、病棟内の共同トイレをレッドゾーンと設定して利用できる。
 - ※ 陽性者はサージカルマスクを必ず着用し、トイレ以外の場所に入ったりトイレの外の物品に接触しない。トイレの後はすぐに病室に戻る。
 - ※ 廊下を通過する陽性者には、職員はN95レスピレーターとアイプロテクト未着用で接近しない。
 - ※ 陽性者の使用する共同トイレは陽性者専用とする。
- 疑似症患者や濃厚接触者は必ず個室のトイレかポータブルトイレを利用する。



PPE着用場所の例



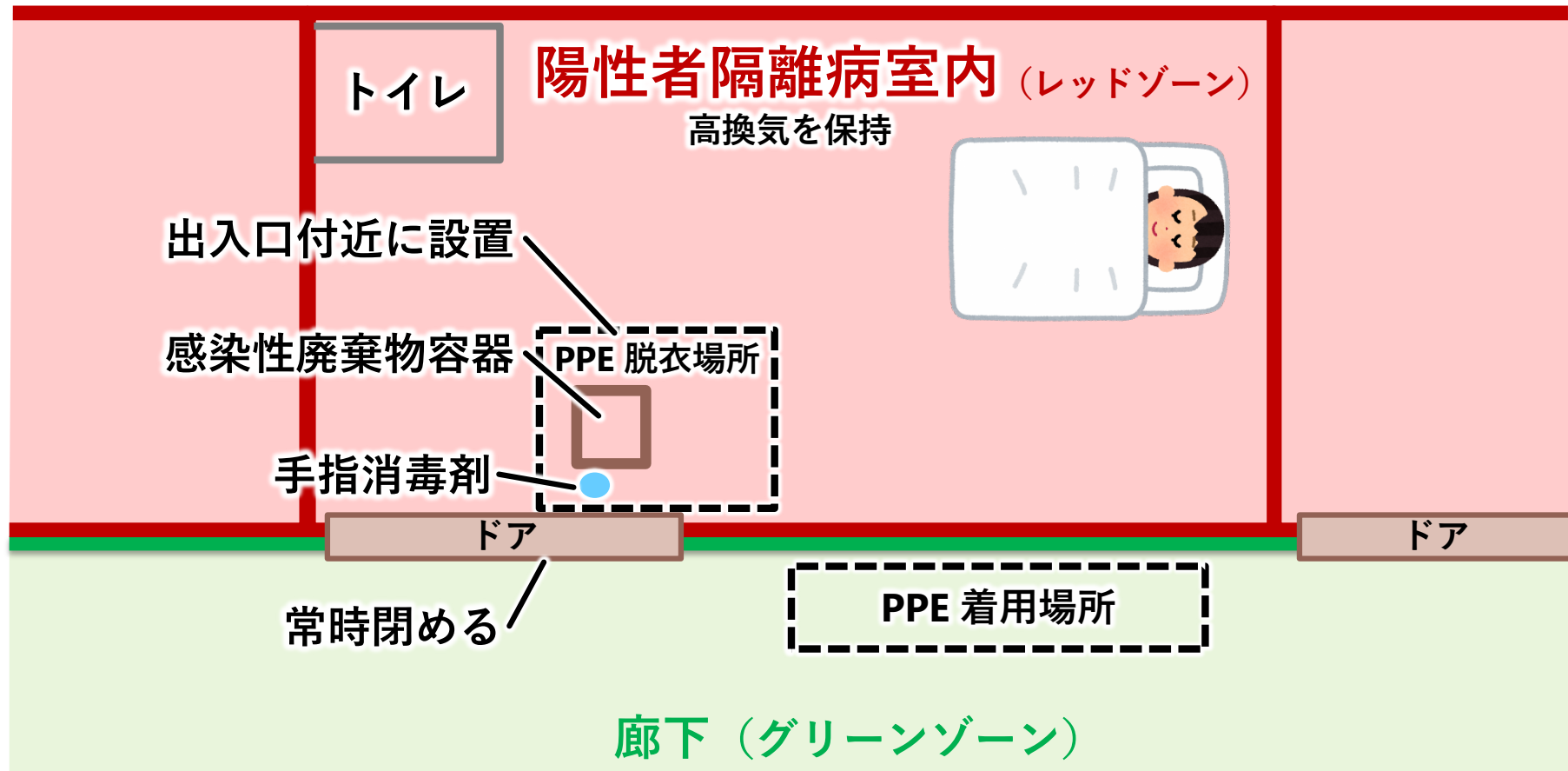
PPE脱衣場所の例



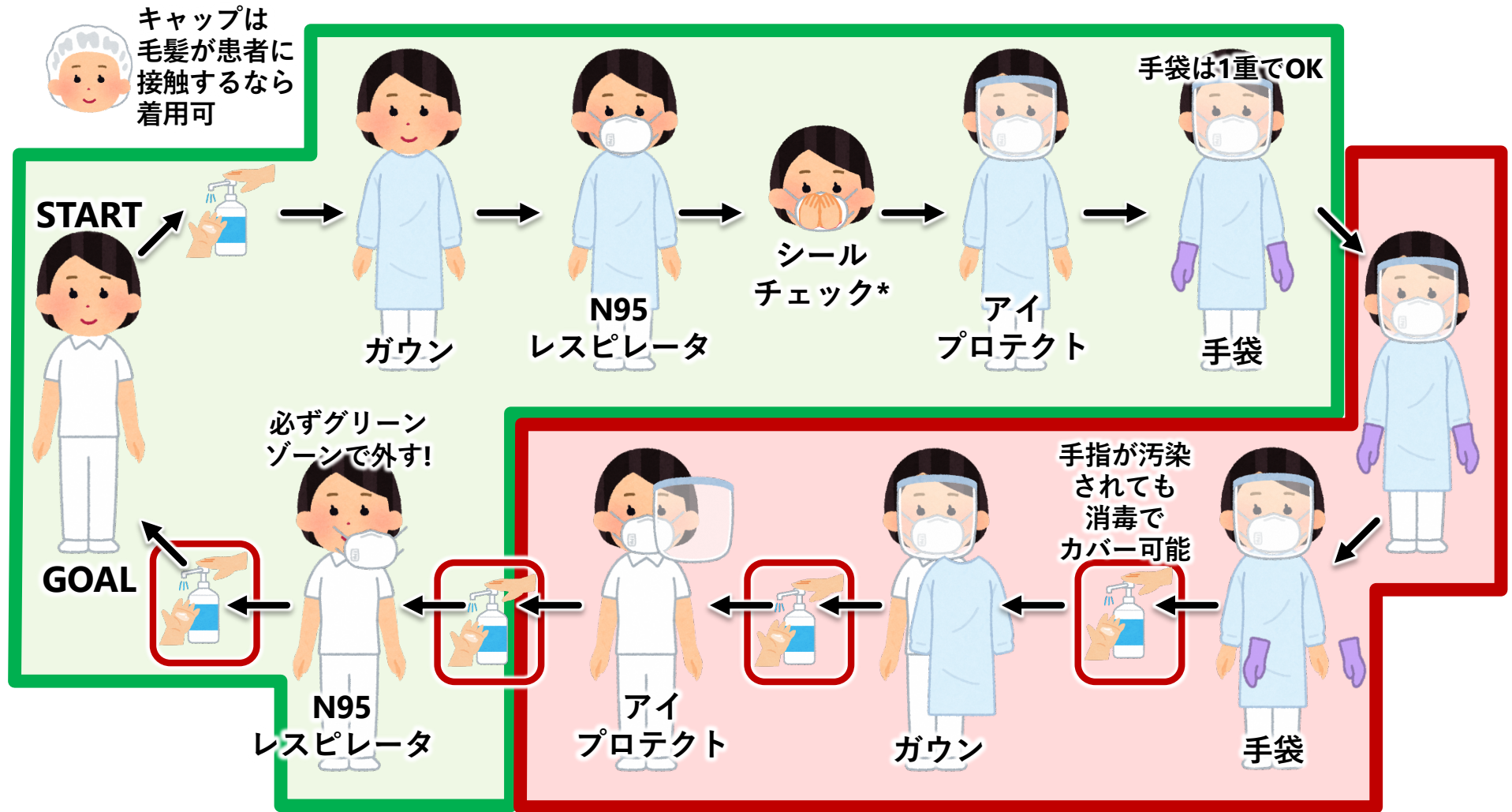
※フェイスシールドをエタノールクロス等で消毒して再使用する場合は、消毒後にグリーンゾーンで保管する。

実際の事例に基づき研究班において作成

PPE着脱場所の例(上からの視点)



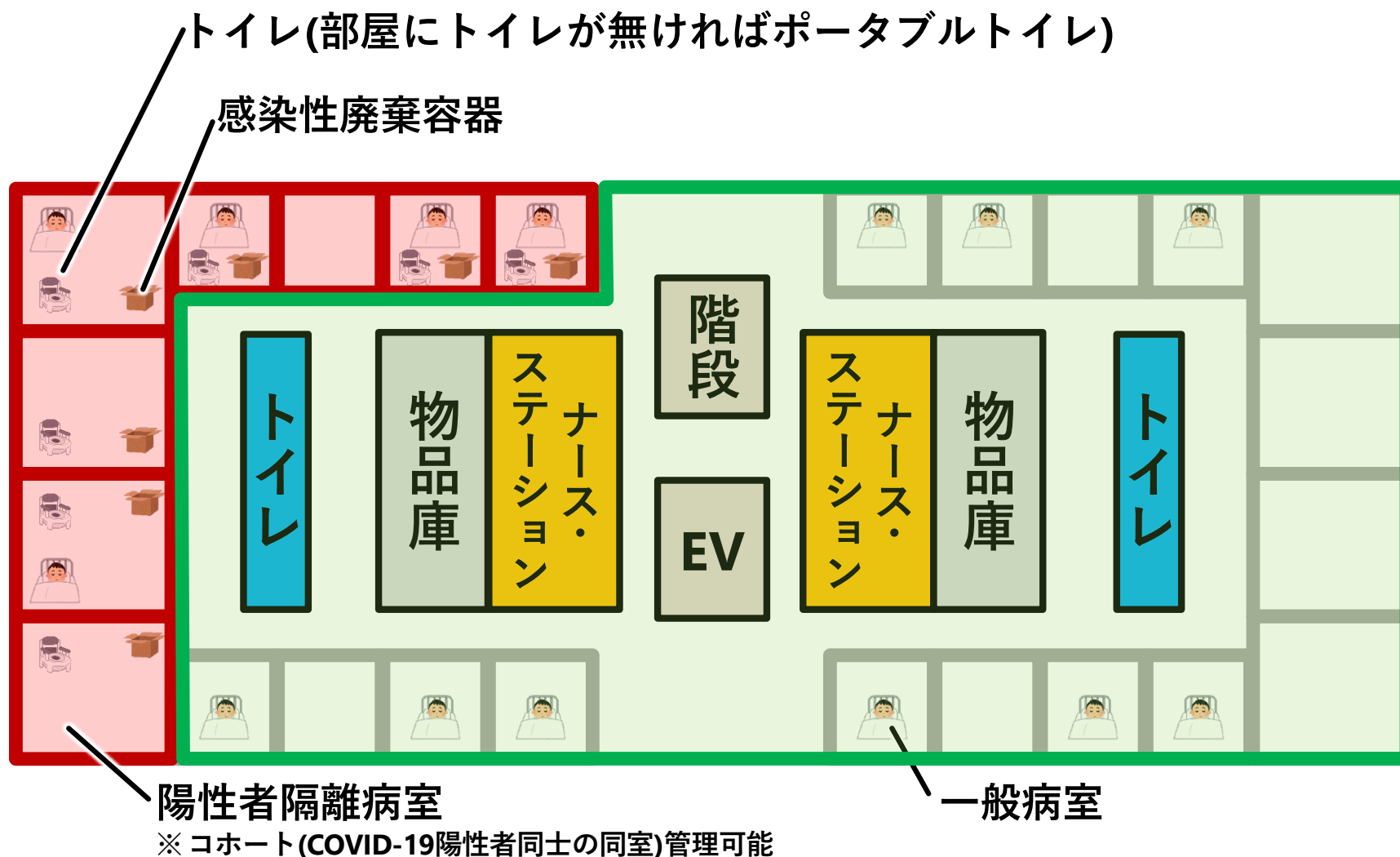
PPE着脱順序



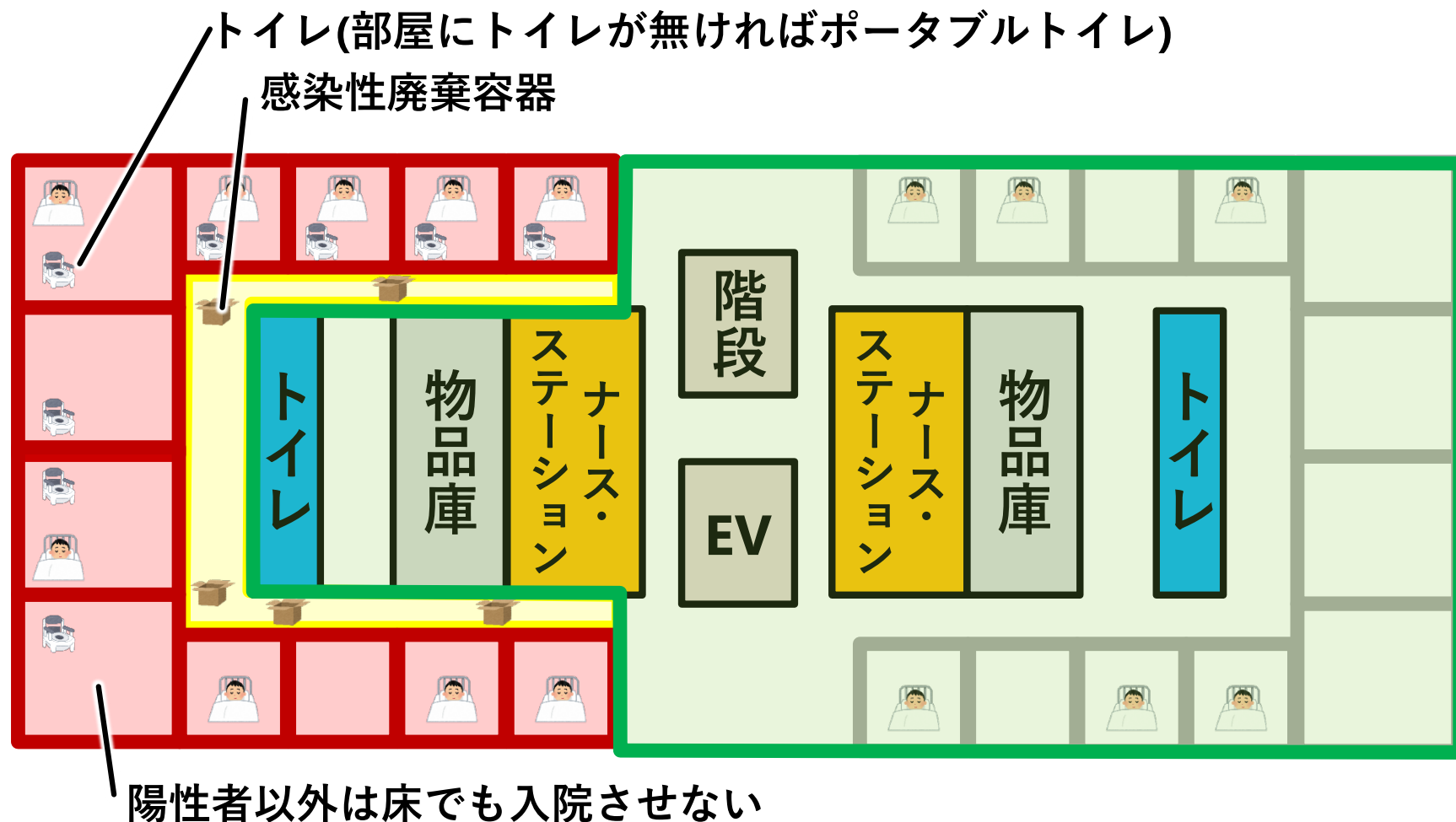
* シールチェックとはN95レスピレータが適正に着用されているかを、息を勢いよく吐いたり吸ったりして、レスピレータの横から空気が漏れないかを確認する手技のこと。

実際の事例に基づき研究班において作成

医療施設の基本的なゾーニング

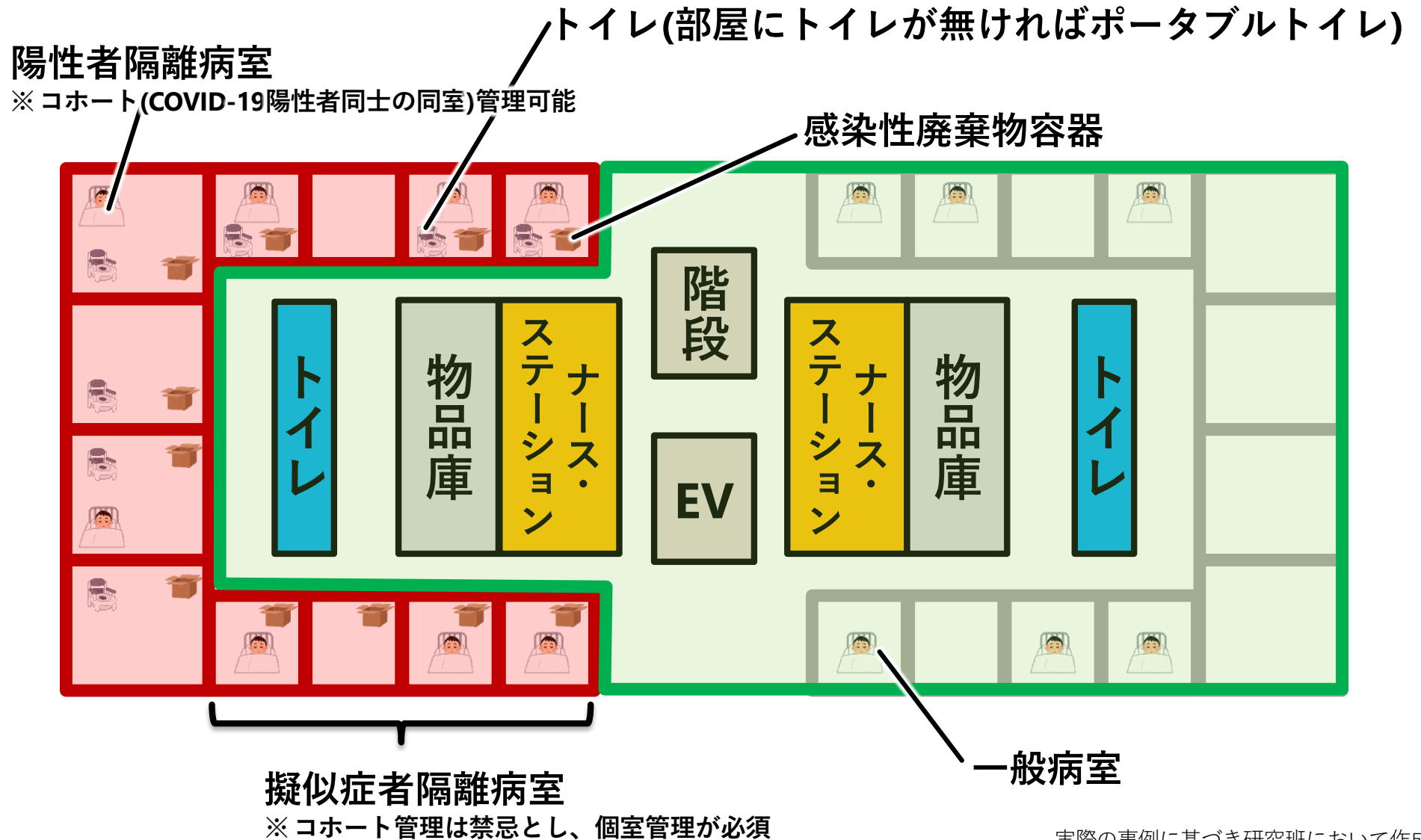


イエローゾーンを設定する場合



※隔離室内にPPE脱衣場所が設定できない場合は廊下をイエローとしてPPE着脱を行う
(例：部屋の構造や患者の病状のために、病室内に消毒液や廃棄容器を置けない場合)

疑似症者がいる場合



濃厚接触がいる場合

